

兵庫行動枠組の実施状況と課題

【兵庫行動枠組(HFA)の実施状況】

国連が実施する各国のHFA実施状況の点検において、以下が判明

- 国レベルの防災制度・組織の整備(優先行動1)や、災害応急対応準備体制の強化(優先行動5)は比較的進展。
- 一方、経済的な被害は増加しており、潜在的なリスクを軽減させるためのインフラ整備等(優先行動4)は比較的遅れている。
- HFAは防災対策の指針として認知されつつあり、基本的な要素は維持しつつ、新たな課題に対応して強化していく必要がある。

【2005年以降の課題、状況】

- **都市化の進展**や**気候変動**により、災害リスクにさらされる**人口**が増大。
- **グローバル経済の進展**により、災害リスクにさらされる**企業活動**が拡大。
- 各国の**防災制度・組織の整備**は引き続き、大きな課題。
- 災害対応や予防活動の中心となる**地方自治体**、**市民**、**様々なステークホルダー**の能力強化が必要。
- **科学技術の進展**を災害リスクの発見・周知に活用する可能性が拡大。

出典:国連ISDR「兵庫行動枠組の実施状況に係る評価報告書」(2013年4月)

1

東日本大震災の教訓を踏まえた日本の知見

2005年以降の災害リスクの増大、グローバル経済への影響の増大、ステークホルダーの拡大、リスク軽減投資の遅延などの課題へ対応

【知見の例】

- あらゆる行政分野について、「防災」の観点からの総点検を行い、必要な資源を動員する(防災の主流化)
- 自助・共助と多様な主体の協働(企業BCPの策定・改善の促進、多様なステークホルダーの参加)
- 災害リスクにしたたかたで、防災が新たな製品・サービスの創造につながる市場の構築
- ハード対策と土地利用、警戒避難、防災教育・訓練等のソフト施策を組み合わせ、災害に強い国土・地域づくりを実現する。
- 被災地を以前の状態に戻すのみならず、「よりよい復興」を実現する。
- 防災教育・学習、教訓の伝承、情報の収集・伝達 等

出典:中央防災会議「防災対策推進検討会議」の最終報告(平成24年7月)

2

国際的な開発目標への防災の視点の反映

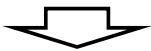
- 2000年 国連ミレニアム宣言



- 2001年 ミレニアム開発目標(MDGs)

現行MDGs 8つの目標 (※防災の位置づけなし)

- ① 極度の貧困と飢饉の撲滅
- ② 初等教育の完全普及の達成
- ③ ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- ④ 乳幼児死亡率の削減
- ⑤ 妊産婦の健康の改善
- ⑥ HIV/エイズ、マラリアその他の疾病の蔓延防止
- ⑦ 環境の持続可能性確保
- ⑧ 開発のためのグローバルなパートナーシップ推進



- 2015年 MDGsの達成期限 → **ポスト2015年開発アジェンダ**の策定

ポスト2015年開発アジェンダにおける防災の明確な位置づけ
→ 開発及び国際協力における**防災の主流化**

世界の自然災害による死者数と被害額の推移

